せやふれあいの庭 2019/7/26 川内村訪問報告書～お祈り･ご支援心から感謝します！

長い曇天が続いた梅雨でしたが、26 日の朝は台風が来ると言われながらも夏雲と青空が見えました。川内村の気温は横浜と変わりませんが風が少しひんやりとしています。私達がデイサービスに到着すると、室内は既に利用者の方々が座る椅子がセッティングされ、利用者の方々はその席に座って藤木先生達を待っていました。その中には仮設でずっと顔見知りだった方々もおられて、うれしそうに藤木先生達を見ています。私達とも目が合い、「あとで話そうね」という表情でニコニコと笑って下さいました。
何回かデイサービスを訪問しているのですが、今回は特にこの働きがデイサービスの職員の方々にも利用者の方々にも好意を持って受け入れられていることを強く感じました。お互いの距離感がぐっと近くなった感じを受けました。音楽療法は 14 時にスタートしました。藤木先生や比夫美先生の指導は優しく楽しく行われてゆき、利用者の方々の心から「楽しみと喜び」が湧き上がり、あふれ流れてきます。音楽療法の終盤には「川内小唄」が歌われましたが、職員の方々も踊りながら楽しんでくださっていました。終了後、仮設で出会った方々の所へ行きましたが、「元気だった？うれしい！なつかしい！」と手を取り合って話す再会の喜びのひと時が与えられ、感謝な時をすごしました。（記念写真は施設より公表を止められているので掲載することができません。ご了承下さい。）

川内村は変化しています。今回、パン屋が出来ました。軽井沢の浅野屋という有名なパン屋と DONQ（パン屋）で修行をした川内村出身のパン職人の方が、いつか川内村でパン屋をと願い、震災を経てつい最近オープンしました。都会的センスのおしゃれなお店です。
音楽療法のあと、6 月の訪問時に留守だった Y さんを訪問しました。Y さんは復興住宅にすんでいますが、来年度から家賃が全額支払いになる為、経済的に厳しく、ついに川内村を出て郡山市に娘夫婦と住む準備を始めました。富岡には立派な家があり、そこで最期まで暮らしていくはずでしたが震災と放射能で富岡の家は手放さなければならず、何回も引越を余儀なくされました。「家に上がっていかないの？」と誘われましたが夕方でしたので、玄関先で話をして別れました。
帰り道、高速に乗ると、灰色の雲に虹がかかっていました。神様が見せて下さった虹の様に感じました。